

## 『人間科学研究紀要』の創刊に寄せて

平成13年4月1日をもって、大阪樟蔭女子大学人間科学部が関屋キャンパスに開設され、既設の樟蔭女子短期大学は大阪樟蔭女子大学短期大学部として改組されました。

現代は、科学技術の進展と共に、めまぐるしい社会変動と価値の多様化の中にあって、人間の在り方が問われているときであります。本学の人間科学部と短期大学部は共に、全人を視野に入れて人間を追求し、自立して生き抜く力を身につけた人材育成をめざしています。このことから言えば、人間科学部の開設と短期大学の改組は、時代の要請に応ずる時宜を得たものであったと言えます。

大学の責務は、「真なるもの」を求めて絶えざる「学び」をすることにあります。その「学び」は「問う」ことから始まります。そして、深い「学び」は、ひたむきな「問い」によってなされる、とも言えましょう。このひたむきな「問い」は、日常の身近かなことから発せられるところに、一層親近感をもって、「学び」を「わがもの」とし深めていくことができると考えます。

「わがもの」とした「学び」の成果は、世に問うてみなければなりません。世に問うことによって、再び、わたくしたちはみずからに問い、「学び」を深めることができるからであります。また、「学び」の成果を世に問うことによって、わたくしたちは学的知の財産を共有することができるのみならず、社会的要請にも応えることができるのです。この願いを込めて公刊するのが大阪樟蔭女子大学の『人間科学研究紀要』なのです。

このたび、珠玉の論稿14編を収めて、『人間科学研究紀要』創刊号が刊行されることを、樟蔭学園の皆さま、とりわけ関屋キャンパスに集う皆さまと共に喜びたいと思います。と同時に、これを機として、今後『人間科学研究紀要』を通して、わたくしたちは互いに「人間」を「問い」つづけ、共に永く「学び」の友となれることを念ずるばかりです。

2001年11月19日

大阪樟蔭女子大学  
人間科学部学部長

片 山 忠 次